



20 陸海軍連合大演習 柳源吉

明治二十三年（一八九〇） 油彩・カンヴァス
九五・七×一五〇・〇

本図に描かれているのは、明治二十三年三月二十九日から四月二日にかけて愛知県で挙行された、近代日本史上初の陸海軍連合大演習である。海外の駐在公使や武官も同行した、国家の威信をかけた軍事演習であり、明治天皇も連日現地で統監された。額裏に貼られた旧紙札には「明治廿三年三月三十一日 雨 陸海軍連合大演習（以下、残りの紙片が欠失しており内容不明）」とあり、三月三十一日の演習の様子であることがわかる。「明治天皇紀」の同日の項によれば、半田町雁宿山の高地で東軍と西軍に分かれた陸海軍が応戦する様子を、天皇は金華山号に乗馬されたまま統監された。旧紙札にもあるように、この日は雨天で、「天皇御手づから龍顔に注ぐ雨を拂はせたまひ」という状況であった。演習に同行取材した柳源吉は、雨雲が重く垂れこめる陰鬱な景色を見事にとらえており、兵士および艦船の射撃による煙幕がたなびく様が、演習の臨場感をよく伝えている。また、油彩画では極めて珍しい表現であるが、激しく叩きつけるような雨をごく細い白の斜線で描いており、従来の日本絵画の手法の影響として注目される。画中にサインはない。

柳源吉（一八五八～一九二三）はわが国の洋画の先駆者高橋由一の長男である。工部美術学校に学んだが、指導者フォンタネージの帰国にともない着任した後任教師フェレットに不満を抱き、小山正太郎らとともに退学した。その後、明治十三年創刊のわが国初の美術雑誌『臥遊席珍』の主幹をつとめ、同誌の挿図も描いた。明治美術会の活動にも加わり、同会の解散まで常設展示や作品販売の仕事をしたが、その後の活動については詳らかでない。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections